

H22 年度もたくさんの活動が年間と通して行われました。各報告を、事業担当者がまとめました。

■おもちゃ図書館ぽっぽ

事業紹介～たくさんのおもちゃに囲まれながら、障がいを持った子ども達に「おもちゃで遊ぶ楽しさと、安心して遊べる場所」を提供しています。対象は、0～10歳程度の障がい児とその家族。毎月第4土曜日に堺市総合福祉会館プレイルームで開催しています。

スタッフも、そのほとんどが障がい児の母。参加者のみなさんと一緒にほんわかしたムードで活動しています。開館日には、参加者のみなさんと同じ子育てのしんどさを語り合ったり、子どもの成長を喜びあったりしたり、情報交換をしたり…。元気な子どもたちに笑顔とパワーをもらいながら楽しく活動しています。

H22年度の活動報告

開催回数：10回（10月は福祉会館がイベント開催の為、1月は福祉会館が工事の為実施できず）

おもちゃ貸出数：8～32点（月平均18点） 年間延べ件数183点

参加者：48～94名（月平均72名） 年間延べ人数 721名

■その他の活動

活動	内容	回数	参加者数
機関紙よっTOYで！	編集会議・印刷	年10回（月1回）	延べ 50名
クリーニング	おもちゃの清掃	年10回	延べ 55名
倉庫作業	倉庫内の整理	年1回	4名
運営会議	運営について話し合い	年10回	延べ 50名
総会		年 1回	9名
イベント	スタッフアウトドア	年 1回	38名
イエローレシートキャンペーン	啓発活動	年 2回	4名
合計			210名

開館日・その他の活動合わせての延べ総数 931名

平成22年度は、障がいを持った幼児とその兄弟が共に楽しめる企画を…と、アウトドアイベントを企画しました。山科直治記念レジャー活動助成の支援金を受け、ぽっぽスタッフ限定ではありましたが、海遊館にて集合し、水族館見学を楽しんだ後、サンタマリア号乗船の体験をしました。子ども達は、ボランティアさんとマンツーマンで海遊館を見学したあと、波止場より遊覧船に乗る体験を通して、母以外の大人と関わる経験や、普段の活動場所（おもちゃ図書館ぽっぽ）以外で楽しむことを経験でき、障がい児とその兄弟それぞれにとって有意義なイベントとなりました。このイベントを機に、その後の開館日にお手伝いして下さるなど、ボランティアさんとの繋がりもできました。

～～ある日のぽっぽ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

パパと来ていたAちゃん。ボーリングのピンを上手に並べて、長～い道を作っていました。そこへ、車で遊んでいたBくんがやって来ました。ピンの道を壊してしまうのではないかと、見ているスタッフの方が冷や冷やしましたが、上手に運転し回避。Bくんの運転技術は日々向上されているようです。

この日は、トーマスのテントが初登場！！新しいものには目がない子どもたち。テントを使っているいろんな遊びに挑戦していました。パワフルな男の子たちは、テントごと大回転し、ドーン、バーンと転がって…いったいどこに行くのやら～。女の子たちは、テントの中に冷蔵庫やお料理セットを運び入れ、秘密のままごと遊びに夢中です。それが気になる男の子たち。玄関から、窓からも『入れて～！』『何してるの～？』トーマステントは、あっという間に中も外も 子どもたちでいっぱいになりました。

ぽっぽは、ぴーず会員以外（誰でも）利用できるグループです

事業紹介～障がい児が集団で音楽を楽しむ支援をしています。

年齢や障がい状態にあわせて小さなグループを構成しています。幼児・低学年は保護者と一緒に、高学年～はひとりで or ヘルパーさんと一緒に、歌う・聴く・演奏する・踊るなど自分を自分らしく表現しつつ楽しめます。現在4グループが月1回、土曜日に活動中です。

**H22年度の活動報告**

実施回数：44回（年間延べ参加者数149名）

実施場所：ソフィア堺4F ミュージックルーム

★第1グループ／幼児グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

★第2グループ／幼児～小学低学年のグループ（比較的コミュニケーションできる児童）

母と一緒に参加ですが、活動は単独で行うことが多いです。「歌う」は数曲の中から一人ずつ自分で曲を決め、カラオケを使用し、みんなで歌います。「楽器」太鼓のリズム打ちを練習中です。「聴く」では先生のピアノ演奏を静かに聴いています。

★第3グループ／小学中・高学年グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

「歌う」では数曲の絵カードから選んでカラオケを使用し、みんなで歌います。「踊る」では歩く・飛び・フラフープを使っのりリズム。「楽器」は太鼓のリズム打ちを練習中です。「聴く」では先生のピアノ演奏を静かに聴き、拍手も忘れません。

★第4グループ／小学高学年～中学生グループ（コミュニケーションの困難な児童生徒）

「挨拶」発語のない子はビッグマック（会話補助装置）を使い「こんにちは！」。発語のある子もまねしてビッグマックであいさつ。年齢的なことに考慮し、完全母子分離での単独参加です。「歌う」ではスタッフの支援を受けながら一人ずつ自分で数曲の絵カードから選びます。「楽器」は太鼓・なるこ。「聴く」先生のピアノ演奏を静かに聴いています。

～～ある日のドロップス～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

単独参加のSくん。入室後にすぐ準備するスタッフのところに来て、歌う曲のカード『サザエさん』を[選ぶボード]にさしていました。が、そのスタッフが一旦離れた間に、全体スケジュールでは『ポニョ』になっていて・・・先生に確認すると、Sくんは自分でスケジュールに『ポニョ』を入れていたとか。「ポニョに変えたんだ～」って思ったスタッフはそのままスルーしました。

ところが、みんなで[うたう]をした後、先生の「はい、[うたう]おしまいです。マイクをしまっ」の声にSくんが猛然と前へダッシュ！机の上の楽器やスタンドを払いのけ、大荒れの様子にみんなビックリ！

その姿に、もはや！と思ったスタッフ。『サザエさん』のカードを見せ「サザエさん歌いたかった？」って聞くと、すう～って、落ち着き席に戻りました。

そこで、もう1曲追加！サザエさん歌い終わると、スケジュールの[うたう]をおしまいにし、次の[おどる]にスムーズに移行できました。この日は、別のグループから移動してきたお友だちもいたり、スタッフの変更もあったりして、Sくんにはきっと不安なままのスタートだったんだと思います。

終了後、スタッフ間の確認が不十分だったために、Sくんにかわいそうなことしてしまった・・・と母にお詫びして、方法はちょっと手荒だったけど、気持ちをしっかり伝えてくれましたって報告。母からは「いつもいろいろやらかして、すみません。でもドロップスはSのことホントに理解していただいているので、安心してヘルパーさんと送り出せます…」って、うれしい返信いただきました。ドロップスでは、子どもたちの姿に教えられることがいっぱいです。

**ドロップスは、ぴーす会員のみが利用できるグループです**



事業紹介～e-AT（電子情報支援技術）を用いて、肢体／知的の重複障がい児の余暇活動支援をしています。

身体の不自由さを e-AT 利用で補い、人に動かされるのではなく、自分の意志でおもちゃを動かす

- ・音楽を聴く等など様々な活動をしています。

**H22 年度の活動報告**

実施回数：10回（年間延べ参加者数117名）

実施場所：堺支援学校内 同窓会館

百舌鳥支援学校・堺支援学校の学齢期の重複障害のある児童が、おおむね月に一度、水曜日の放課後に活動しています。子供の遊ぶ姿を通して、保護者は支援機器の利用やコミュニケーションの支援について学んでいます。

～～ある日のぷらっしゅ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

H22年6月、ぷらっしゅに、今話題の情報端末『iPad（アイパッド）』がお目見えしました！

ぷらっしゅに来る子どもたちは、手にマヒがあったりマヒがなくてもとても不器用だったり、細かい手での操作が苦手です。けれど、iPad（アイパッド）はマルチタッチなので、少々乱雑にタッチしても反応が起きる。また、何十万という数のアプリケーションが簡単にダウンロードできるので、いろいろな楽しみ方の可能性があります。



Kくんは、ゲーム「太鼓の達人」に、すぐに夢中になりました。最初は音楽を聴くだけでしたが、今ではゲームの設定を変えたり、太鼓をランダムに指でたたいたりして、遊び方が広がってきています。

Nくんは、「花火打ち上げ」の癒し系のアプリに夢中です。最初は、iPad（アイパッド）の画面をバンバンたたきただけだったのですが、回を重ねるごとに、自分の指が画面に触れることで、きれいな花火が上がるのが分かってきました。

今では、確かな指の動きできれいな花火を打ち上げ大喜びしています。ほかにも人気なのは「お絵かき」「ディズニーの動く絵本」などです。

「とても重い障がいを持つ子どもに『iPad（アイパッド）』だなんて・・・と躊躇する方、「できる子は『その子が特別』なんでしょ」と思う方（きっとたくさんいらっしゃるでしょうが）、いえいえ、ぷらっしゅの子ども達は『ごくごく普通の？重度障がい児』！普通？の彼らがとても意欲的に『iPad（アイパッド）』を楽しんでいる様子、よければぜひ見に来てくださいね。

==ぷらっしゅ保護者の感想==

最初、『iPad（アイパッド）』がぷらっしゅでお試しできると聞いた時は、「うちの子には無理！」と思っていました。実際触らせてもらってびっくりしたのは、子どもが興味を示したことです。

ただ、私が予想したのは、スリーDの万華鏡やおもしろピアノなど触ると音での出るものしか無理かなと思っていたのですが、なんと一番喜んだのが「お絵かきソフト」でびっくりしました。

手のマヒが強く、お絵かきなんて無理とおもっていたので、本当にびっくりです。今は、家で購入し、家族と取り合いして、使っています。

ぷらっしゅは、ぴーす会員以外（誰でも）利用できるグループです

事業紹介～小学4年生以上の障がい児が「友人とグループで外出する」のを支援している活動です。

お母さんから離れて、お友達と外出！グループは、年齢や障がい程度に合わせて構成しています。できるだけ子ども達の自主性を重視し「やれることは子ども達で」を基本としていますが、全体の管理はびーすの支援センターが行い、計画から報告までをやっています。

**H22年度の活動報告**

3つのグループが活動しました。

びっぴ2 軽度知的障がいの中学生チーム

びっぴ7 軽度発達障がいの中1・小5のチーム

びっぴ8 重度知的障がいの高校生チーム

それぞれ月1回、活動を行いました。（1及び3～6は、子ども達の成長等に合わせ、活動終了しています）

★びっぴ2 軽度知的障がいの中学生チーム

実施回数 12回 （年間延べ参加数 73名）

行き先 アミティ舞洲、下水道科学館、ボウリング、なにわの海の時空館など

★びっぴ7 軽度知的障がいの中学生チーム

実施回数 8回 （年間延べ参加数 30名）

行き先 ビッグバン、ドリーム21、さをりの森、ハーベストの丘など

★びっぴ8 重度知的障がいの高校生チーム

実施回数 7回 （年間延べ参加数 28名）

行き先 キッズプラザ大阪、みさき公園、インスタントラーメン記念館など

～～ある日のびっぴ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

びっぴ2はメンバーの入れ替わりがありながらも、一番長く活動を続けているグループです。

大阪市立科学館に行った時のエピソードを紹介。リーダーがプラネタリウムが見たいと選んだ行き先でした。中には暗い場所が苦手なメンバーもいたので、別行動もOKと出かけて行きましたが、きっちりプラネタリウム鑑賞に成功！プラネタリウム以外にも磁石の不思議や遠心力の実験など、体験型のスペースが多かったこともあり、メンバーが分散☆スタッフが集合時間と場所を決めると、散らばっていたメンバーがちゃんと集合できたそうです。メンバーのうち、3年生の2名は3月でびっぴ2も卒業しました。これからがんばってね！

びっぴ7女の子2名のグループ。さをりの森に行った時の活動をエピソードを紹介。さをり用の糸を選ぶのも、最初は戸惑いながらでしたが、織り始めるとそれぞれの好みと性格？がはっきりわかる、とってもいい作品ができあがりました。時間があればもっと大作ができていたかも？！次はクリスマスプレゼント用の物を作りに来たい！と満足のいく出来だったようです。

びっぴ8も女の子2名のグループ。カラオケに行った時のエピソードです。ヘキサゴンファミリーやAKBの歌をフリ付きで歌ってくれました。さすが、高校生。ノリノリです♪二人で一緒に歌ったり、踊ったり……。スタッフもとっても楽しませてもらいました。時間が来て、名残惜しそうな二人。もっと歌いたかったね。

＝＝担当者の一年をふりかえって＝＝＝＝＝＝＝＝

どのグループも、時には活動に乗れず、少し不機嫌な子がいたり、おもしろくないなあということもあるようですが、「グループでの活動」ということで、それなりにみんなに合せたり待ったり、公共の場でのマナーに気づいたり。保護者と一緒ではついつい気づかずに過ぎてしまうことも学んでくれているようで、うれしく思います。

**びっぴは、びーす会員以外（誰でも）利用できるグループです**



事業紹介～ぱるは障がい児の放課後生活を支援しているグループです。

開始当初は運営のすべてを母達で行っていましたが、H17年度に〈堺市ファミリーサポートデイサービス事業の補助〉を受けることとなり、その後H18年に、利用児童母達の運営から“NPO法人ぴーすの運営”に形態を変更。その際に、グループを1つ追加。そしてH20年度には〔堺市障害児放課後活動等支援事業〕が開始され、新たな補助に変わると同時に、もう1つグループを追加。翌年のH21年度は上神谷支援学校の開校に伴い、また1つグループを追加。年を経るごとにどんどん大きくなりました

現在は、4つのグループに、堺市内の各支援学校・地域小学校から、毎週延べ約100名（実数49名）の子ども達がやってきて、毎日にぎやかに活動をしています。

小学1年生から高校3年生まで、すべての学年の子どもが、障がいに関わらず年齢らしい暮らしぶりとして、「自己決定・コミュニケーション・地域性」を大切に活動しています。やわらかな集団活動の中で、自分のやりたいことを、友達を意識しながら楽しんでいます。

### H22年度の活動報告

●活動拠点 ぱるの家 中区深井清水町 ぼんたの家 北区百舌鳥本町  
 ぴらすの家 北区中百舌鳥町 ぺりえの家 南区原山台

●活動人数

小1＝4名 小2＝4名 小3＝3名 小4＝9名 小5＝4名 小6＝6名  
 中1＝4名 中2＝2名 中3＝2名 高1＝4名 高2＝5名 高3＝2名 計49名

●活動内容

学校が終わると、子ども達は友人・スタッフとともに、徒歩あるいは南海バス・電車を使っての集団下校をします。活動する家についたら、全員が「今日すること（スケジュール）」を決め、その日の活動がはじまります。大まかな内容はスタッフが決めますが、「いつおやつを食べるか?」「いつ、どこに買い物に行くか?」などは子ども達が自分で決めています（自己決定の練習です）。過ごし方は個々にいろいろです。家でゲームやビデオを楽しむ子、近所のお店で買い物する子、公園へ遊びに行く子。地域の方たち接する機会も多くあり、買い物等で利用するお店の人に「上手に買い物できるようになったなあ」とほめられることもあります。活動の中では、ワークシステムを使った自立課題に取り組んだり、また年齢相応の活動ということで、高学年からいろんなお仕事もしています。雑巾がけ、洗濯物干し、ゴミ集めなど、その子にあった内容です。高校生グループでは、家の掃除をすべて子どもたちが担当しています。また小中学生グループでも、年末の大掃除を子どもたちでしてくれました。

日頃は「マイペース」で過ごす子が多いのですが、夏・冬・春の長期休暇には、クッキング、製作もの、時には遠いところまで外出したり、みんなで外食をしたりします。

この一年間も色んな活動を行いました。

流しそうめん、ホットドッグ作り、うどん作り、餃子作り、クッキー作り、アイスクリーム作り、グミ作り、紙粘土での製作、エコバッグ作り、Tシャツ作り、年賀状やクリスマスカード製作、書き初め、クリスマスパーティー、プラネタリウム、天王寺動物園、大池公園、大仙公園へのお出かけ、なんばパークス、アリオハショッピング、カラオケ、初詣、お花見、作業所見学 などなど、そのグループにあった活動をスタッフが考えて、取り組んでいます。



～～ある日のぱる～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

休み中は、活動時間も長くなるので、外出・クッキング・製作物などしています。その中でも、ヒットしたのがグミ作り。おやつのお買い物でも買う子が多い、みんなが好きなおやつだったので「今日はグミを作るよ！」とスケジュールに入れると、すぐに興味を寄せて。カードを指差し、スタッフに「これつくるん??」と確認する子。「つくるよ～」と伝えると、とびっきりの笑顔。「早く！早く！」と催促する子もいました。



レシピは簡単。あたためた100%ジュースにゼラチンと砂糖を入れて混ぜて、冷やすだけ。とても慎重にゼラチンを入れゆっくりかきまぜる子。その反対に大胆に入れて、しっかり混ぜ合わせる子と、いろいろです。でも出来上がりには、あまり関係なかったかも（笑）。出来上がると「まず触って感触を確かめ、次は舐めてみて」と慎重に食べてる子もいました。

初めて作ったので、スタッフもどんな味なのか興味もあり「ひとつちょうだい！」と頼んでみると、「僕の!!」といわんばかりに隠されてしまいました。スタッフは、それほど気に入ってくれた！ってことがうれしかったです。今では、作り方を覚えて、ほとんど一人で作っている子もいます。

＝＝ぱる保護者の感想＝＝＝＝＝＝

#### ★泉北支援学校高等部2年の男子（重度・ダウン症）の保護者

百舌鳥支援学校の中学部に入学後の夏休み前から利用させてもらい、もう高等部の2年になりました。

小学校は地域だったので、あまり何も言わなくても周りのお友達から助けてもらったり遊んでもらったり、恵まれていたと思いますが、受け身の生活でした。

「放課後クラブぱる」では遊ぶだけでなく、今の本人の課題を考え、それに合わせた支援をしていただいています。たとえば、その日のスケジュールを自分で組んだり・・・これにより、自主性が身に付き、生活する力がついてきたと思います。私自身も支援の仕方が勉強になり、家でもマネして同じようにカードを作り、帰ってからのスケジュールを組んだ時期もありました。今では、カードではいつの間にかしなくなりましたが、この頃は寝る前に明日のスケジュールを言うのが習慣になっています。「明日、火曜日、学校行って、べりえ」「明日、日曜日、学校休み。テレビアニメ見て、買い物行って、昼ごはん、テレビゲーム」などです。見通しを持って生活できるようになったのは、大きな成長です。

あと1年と少しで学校を卒業して社会人です。「放課後クラブぱる」を利用できるのもあと少し。大好きな場所になっているので、残りもお友達と楽しく過ごし、成長してほしいです。

#### ★上神谷支援学校中学部3年の女子（重度・自閉症）の保護者

べりえに週一回お世話になっています。通いだして3年目に入りました。

思春期真っ只中でもあり、親と離れて自分で人との交流の場へ参加することを楽しんでいるようです。

慣れてきたころの親の気持ちは、「充実度」でした。したいことが見つけられず、時間をもてあましてないか？楽しんでるか？人との交流はあるか？と心配しましたが、今はべりえでのクッキングにはまっているようです。ホットケーキ作り、たこ焼き作り。食いしん坊なので食べるのがうれしいのかと思いきや、友達のを先に作ってあげたりと心配りしているそうで、家ではなかなかさせていない食材の買い出しからさせてもらったりしています。

この夏には大事件(?)あり。自動販売機の故障でお金を入れたのに、ジュースもお金も返ってこない!!こんな理不尽な体験は初めてでした～。スタッフの判断で「故障です」と本人に伝え、買わずにべりえへ帰ったとか。親がいたらもう一回お金を出してジュースを買ってしまったでしょう。ジュースも、お金も返らずでよく帰れたなど・・・スタッフのみなさん対応大変だったと思います。が、世の中こんなこともあると、一つ体験しました（笑）。

ペリエですることは、ひとつひとつが生活スキルの課題になっていると感じます。パニックで人をたたいた後の対処も、家ではパニックにならないような生活を心がけているのでなかなかそういう場面に遭遇しません。なので、対処が小さい子どもの時のままでした。そんな時の対応も、ペリエで勉強させてもらいました。長期休暇も外出やイベントの工夫をしていただいたり、本人は案内プリントを楽しみに見えています。これからも充実した放課後活動をよろしくをお願いします！

#### ★百舌鳥支援学校中学部1年の女子（重度・ダウン症）の保護者

中学部入学を機に、6月から週2回、（現在は週3回）ぱるに通っています。

当初、自分のカバンを持ち、長く歩く事があまりなかった〇〇は、学校からバス停までカバンを持ち、歩く事が苦手で、ずいぶんスタッフの方にもお世話をかけ、学校からみんなと一緒に出発できない時もありました。他の事も重なり気分が乗らない時は、学校から動けず、5時に迎えに行った時に、まだぱるに着いていない時もあったりしたのですが、5ヶ月が過ぎた今では、バス停までの移動も以前にくらべ、スムーズに歩けるようになり、ぱるでのリズムもわかってきて、〇〇なりに楽しめているようです。

以前は、朝「今日は、ぱるに行きます」と伝えると、首をブンブンと横にふったりする事もありましたが、少しずつぱるでの自分の居場所を見つけ、スタッフの人達との信頼関係もできて、『ぱるに、行きます』という気持ちが出てきたように感じます。その事は帰りの様子にも表れていて、迎えに行って車までの道のりの〇〇の表情が、だんだん明るくなっています！その表情で、今日はぱる楽しかったんやナと、私もうれしくなります。

通い始めの頃は、ちょっと無理をさせてるのかな…と思った事もありましたが、今では、ぱるに通って、〇〇もまた1つ経験をつみ、小さいけれど、山を1つこえたかなという思いです。今後は『ぱるに行きます』が、『ぱるに行きたい』に変わっていくと、もっといいなと思います。

#### ★百舌鳥支援学校小学部5年の男子（重度・自閉症）の保護者

息子〇〇は、小1の秋からずっとぱるに参加させていただいています。

現在は、「ぼんたのいえ」と「ぱるのいえ」に計、週3回参加しています。

「ぼんた」や「ぱる」のいえでは、ゲームをしたり、課題をしたり、おやつを買いにスタッフの人と近くのスーパーに出かけたりと、とても意欲的に活動しています。工作好きな息子は、新年始まってすぐのぱるでおもむろに、紙を丸めて何やら作り始めたようで、出来上がったものが、なんと「かがみもち！」スタッフの人から、「大爆笑でした～」と報告をうけて私もうれしい気持ちになりました。

気ままにマイペースな息子の「やりたいこと」「やれること」に、そっと寄り添い、見守ってくださっているスタッフさんには日々感謝です。学校が終わったあと、少人数でゆったり過ごせるぱるやぼんたは、息子にとっても家族にとっても、すごく大事なものになっていて、これからも、ぱる活動での息子の成長を見守っていきたいと思います。

#### ★地域の小学校2年生の男子（軽度・広汎性発達障害）の保護者

地域ぼんたで活動している〇〇です。一人っ子という事もあり、遊びやゲームは家では一人で好き勝手にやりたい放題ですが、ぼんたで時間を守ってする、順番にするとする事をしているので、家でお友達とゲームをする時はもめる事もなく、楽しんで出来るようになりました。また、ホットケーキやたこ焼きなどのクッキングを通してみんなと一緒に作業をする楽しさから、偏食のきつい〇〇は、挑戦する気持ちで少しでも口にするようになりました。あいかわらず、食べる量は少ないですが、学校ではリーダーシップを発揮する事は出来ませんが、その分ぼんたでは持ち前の元気さでグイグイみんなを引っ張って楽しく過ごしています。



## ■発達障がい児のワークショップ 助成：日本生命財団「広がれ元気っ子活動」助成金

事業紹介～NPO法人えんぱわめんと堺の協力のもと、H20年から開始しているワークショップです。

社会性やコミュニケーションに困難さを持つ発達障がい児。机上の勉強だけではなかなかソーシャルスキルが身に付きません。そこで、コミュニケーションをテーマとしたワークショップ（体験型学習）を開始したところ、ワークの中でスタッフとやりとりする姿から、一人ひとりが「何に困ってるのか」「何をがんばってるか」がとてもよくわかり、また素敵な姿をたくさん見せてくれることもわかりました。

そこで、以後は長期休暇ごとに実施を続けたところ、今では常連のお子さんもたくさん現れ、子ども達自身が楽しみにしてくれるようになっていきます。

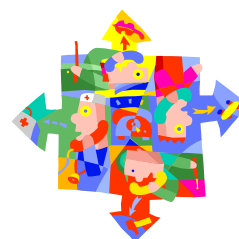
### H22年度の活動報告

★夏休み開催：8月11日(水) 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

テーマ「お互いが気持ちよくつながるために」 (参加者：小2～小6の15名)

～参加者の感想～

- ・いつもワークショップを本人が楽しみにしています。今回もうれしそうに参加していました。学校でもよく言われるんですが、劇はわかりやすいようで本人も大好きみたいです。このワークショップが心の休まる時間なのかな・・・と思っています。



★春休み開催：3月27日(日) 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

テーマ「お互いが気持ちよくつながるために」 (参加者：小1～小6の12名)

～参加者の感想～

- ・初めての参加だったので行くまではとても不安そうでしたが、入室するなりすっかり打ち解けた様子でした。自分と同じ悩みをもったお友達がいること。そして、それを受け入れて暖かく対応してくれる親以外の大人がいることが分かり、本人にとっても心強い体験だったと思います。

※H22年度の冬休みは、日程的事情により開催できませんでした。

## ■きょうだい児のワークショップ～あつまれ！あそぼう会

助成：日本生命財団「広がれ元気っ子活動」助成金

事業紹介～これもNPO法人えんぱわめんと堺の制作協力をいただき、H21年から実施しています。

H21年に行った講演会で「きょうだいにはきょうだいの問題・生きづらさがあり、きょうだいの居場所や仲間が必要である」ということがわかり、それを受けて開始したワークショップです。

しかし、開始してみると、きょうだい児達は「非常に多忙」らしく、募集にあまり申込みがない状態が続いています。H22年度春休み開催は1名しか申込みがありませんでした。次年度はその反省もふまえ、どのような取り組みを行えばいいか、再検討しようと思います。

### H22年度の活動報告

実施日：8月11日(水) 実施場所：堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

テーマ「自分の気持ちを大切にしよう」 (参加者：小1～小6の6名)

～参加者の感想～

- ・本人：すごく楽しかったからまた参加したいと思った。他の子のこともよく分かった。紙を破くとストレスが発散できた。
- ・母：他のきょうだい児が感じていること、思っていること等、帰宅後、話してくれました。自分からあまり話さない子ですが「みんな大変そう」とか「〇〇くんと一緒なん？」とか、質問や自分の気持ちも話してくれ、今日一日色々考えたんだなと思いました。



事業紹介～ニッセイ財団から助成を受け、障がい児へのワークショップをいろんな形で展開をしようと計画する中で、重度・軽度の程度差に関係なく行え、またどの障害でも「参加したいニーズ」があるもの・・・と考えた結果、バッチリなのが「感覚をテーマにしたワークショップ」だということになり、NPO法人み・らいずの協力を得て、企画制作しました。

実施内容は、作業療法士（OT）の先生の指示のもと、会場にブランコやスケートボード、大型のウレタンブロックなどの遊具を設置したり、きらきら光る・ぐにゅぐにゅした手触りなどの感覚グッズをたくさん用意したりして、「さまざまな感覚遊びができる部屋」を準備。その中で、子ども達に、自由に思いのまま遊んでもらうというもの。ワークショップの最後には、OTの先生と保護者のミニ懇談。一人ひとりの子どもの「様子を見た上でのアドバイス」などをしてもらう・・・という工夫もしました。

今年からの開始だったので、初回はうまくいかないことも多かったのですが、参加者からは非常に好評で、スタッフも回を重ねるごとに内容を変更・修正・追加して、より良くなるよう工夫しました。結果なかなか良いワークになってきたかな？と思います。

できれば今後も続けていきたい取り組みです。

★夏休み開催 8月1日(日) 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

参加者：小1～中3の24名

～参加 保護者の感想～

- ・足元が不安定なのに、多動で・・・「高所から跳び降り、手をつかず、怪我をすることも多い」と相談すると・・・手や腕を使う遊び(手押し車など)を勧めてくれました。また、楽しくてテンションが上がりすぎての怪我が多い事も相談すると・・・子ども自身にテンションのコントロールは難しいので、周りの大人が「一息つかせるよう、コントロールする」アドバイスをいただきました。



★冬休み開催：12月18日(土) 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

参加者：小1から中2の17名

～参加 保護者の感想～

- ・初めての所は嫌がることも多いのですが、部屋に入るなり大きいブランコが目に入り、すっとなじめていました。新しい遊具にも誘ってもらい乗っていました。人数も少なくゆったりとした雰囲気の中で遊べていました。

★春休み開催：3月20日(日) 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

参加者：小1～中2の16名

～参加 保護者の感想～

- ・普段の生活の中ではわかりづらい子どもの一面に気づかされ、「あっ、こんなが好きやったんや」「あっ、こういう事が出来るんや」という発見が数多くありました。本人も徐々に思いっきり楽しんだようで、「また遊びたい!!」と書いていました。是非、これからも定期的に行って欲しいと思います。
- ・素人にはなかなか難しい感覚の話ですが、繰り返し先生から話を聞くことで、学びが深まりました。どうぞ、継続して行ってください。

事業の紹介～昨今、障がいに関する書籍は様々な物が出版され、その数は増えるばかりです。しかし、それらが書店で販売されることは稀で「購入はネットで・・・」という人が多く、「ネットだと、中身を見てから購入できない」不便さを感じています。さらに、種類が多い上によく似たタイトルばかりが並び中で「自分にぴったりの一冊」を選ぶのも難しくなっています。

またグッズに関して、最近では障がい支援グッズ・ツールを利用する方が増えてきましたが、それらを販売している所はまだまだ乏しく、これもネットで購入することになります。その物が「頻繁に繰り返し使用する」のなら「購入だけ」でいいのですが、新しく使う・一度チャレンジする場合は、品物が手にとれないととても困ります。また購入した物の使い方がよくわからない、使ってみるとあまりよくない場合も、相談する先に困るのが現状です。

そこでぴーすでは、そんな使用者（お子さんと保護者）のニーズに応えるため、商品を事務所や講演会場に並べて、手にとって選んでいただけるように『障がい児・者のための楽しい暮らしを支援するモノ』の展示販売をしています。

**H22年度の活動報告**

**★新たに登場した商品 《生活場面絵カード》**

4月、プロテクション・アンド・アドボカシー・大阪(P & A - 大阪)から『ねえねえ!きいて!生活場面カード』が発売されました。

子どもが、トイレや食事など基本的な生活習慣を身につけ、周囲の友達と仲良く楽しく遊んだり、街に出て危険な場面に遭遇しないようにと、子育てに役立つ場面を、52枚の絵カードとしてまとめられたものです。

障がいを持った子どもたちだけでなく、幼稚園や保育園、療育機関や小学校などでも「使える!」、とてもわかりやすい内容です。●販売価格:¥1000●詳細案内:[http://s-pla.jp/products/list.php?category\\_id=10](http://s-pla.jp/products/list.php?category_id=10)

**★購入数が多かったモノ 《防災ワッペン・防災手帳》**

ぴーすがH17年度より『障害児のための防災を考えるプロジェクト』として、障害児家族当事者の視点で考える防災を提言し、障がい児・者の防災についての啓発活動に継続的に取り組んでいます。その1つが防災手帳・ワッペンの推進です。手帳には、名前や緊急連絡先、家族の集合場所や最寄りの避難先などの他、援護が必要な理由(障がい名など)、コミュニケーションのとり方、障がいや病気の特徴やかかりつけの病院など書き込めるようになっています。

ワッペンは、裏ポケットに名前・連絡先・要援護の理由を書き込む用紙を入れるようになっています。

H22年度は、東日本大震災直後に、読売新聞に掲載されたこともあり、全国各地から障害者・高齢者/家族から問合せや購入申込が殺到しました。

**防災手帳・ワッペン**



**★講演会で人気だったモノ 《感覚おもちゃ》**

H20年度から毎年『障がい児の感覚』をテーマに講演会を開催しているぴーす。講師の太田篤志先生がお薦めする「感覚おもちゃ」を紹介することから、ぴーすの感覚おもちゃ取り扱いが始まりました。年間を通じ「おもしろいおもちゃはないか?」と探して見つけて・・・は仕入れを続ける中、2月に開催した感覚講演会では、太田先生より「今年のもちおすすめ」も教えていただき、どんどん扱う種類が増えている商品です。

キラキラ「ひかりもの」系・グニュグニュ「感触系」・音で楽しむ系などなど、お手ごろ価格のたのしいおもちゃがいっぱい、子どもだけでなく保護者も「これ好き〜♪」の声があがる人気商品です。



事業紹介～ぴーすは、障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。具体的には、3つの方法をとって行っています。

1：メールニュース『ふぁにい』

月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信。生活に密着した情報をタイムリーに届けることができる「欲しい情報が欲しい時に手に入る」ニュースです。

▼平成22年度総配信数：389件（期間H22年4月～H23年3月 月平均配信数 32件）

カテゴリー	記事内容(抜粋)													合計
福祉行政制度	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業／「特別児童扶養手当」を受給されてるみなさんへ／堺市地域防災計画パブリックコメント募集													11
民間の社会資源	堺市内の福祉避難所／こだわりのパン工房作業所のご紹介 無料で使える会議室のご紹介／SST体験クラスのご案内													16
お得情報/障害割引情報	総務省地上デジタル支援のご案内／青い鳥郵便葉書の無償配布 障害手帳に関する割引情報／チンチン電車の運賃値下げのご案内													5
余暇お出かけ先施設情報	道の駅「いずみ山愛の里」／屋内外2つのプールが楽しめる長居プール ／淡路島「華海月」完全貸切旅館のご紹介													17
余暇エンタメ情報	人形劇団クラルテ公演会／アウトサイダーアート絵画展 バリアフリープラザのご案内／劇団:東京セレソソデラックスお芝居													26
余暇文化活動	第6回堺市障害者スポーツ大会／障害者の方にパソコン講習会 ひきたま'sスパイシー音楽ワークショップ／ファインの水泳練習会													42
余暇イベント	南海電車まつり／第9回南区ちよっくらわくわくまつり 海遊館前イベント広場／中百舌鳥校区/福祉チャリティーバザー													34
セミナー/講演会/学習会	世界自閉症啓発デーシンポジウム／大阪手をつなぐ育成会講演会 高機能自閉症/アスペルガー症候群の理解と支援のご案内													75
書籍/番組/モノ等の紹介	被災地の障害者の今！TV番組のお知らせ／地元の災害情報収集に役立つ FM放送／iPhoneなど携帯端末用アプリ～福祉分野へ活用広がり													49
ぴーすからのお知らせ	OT(作業療法士)による感覚ワークショップ／「箆蔵くん」～うれしいアフターケアのお知らせ／シングルマザーのおしゃべり会													111
合計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	389	
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
	29	26	40	30	29	30	39	38	28	31	29	40		

～～担当者より 一年をふりかえって～～～～～～～～～～

H22年度も利用会員から情報を多数寄せて頂き、幅広い情報を配信することができました。  
記事内容で印象的だったのは、東日本大震災直後のTV番組紹介です。長引く避難生活の中で、障害のある人たちへなかなか支援が思うように届かない現状が連日にわたって、リアルタイムに伝えられました。とりわけ自閉症の人の特性に寄り添った支援について、医療・福祉・メディアなどが情報発信する様子も伝えられました。それをご覧になられた方々からぴーすの防災グッズへの問い合わせが多数寄せられることにもつながっていきました。



2009年1月7日開設 ぴーすの各事業の開催情報や活動報告、スタッフの様子などをリアルタイムに発信しています。本年度もドロップスやおもちゃ図書館など余暇活動を精力的に行っているグループの活動の様子を画像とともに紹介いたしました。

▼月別記事数

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	63
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
4	9	4	4	6	7	9	5	3	3	5	4	

ブログ記事より

<p><b>【堺市市民活動支援基金パネル展の報告】</b></p> <p>堺市市民活動支援基金のパネル展が、堺市役所本館1階ロビーにて開催されました。この基金は「NPO 法人の自立とその自主的で活発な活動を促進するため市民や企業等の方々からの寄附金を活用し、基金に登録された堺市内の NPO 法人が行う市域の公益的な活動に助成を行われるというものです。</p> <p>ぴーすは、今年度、「障がい児のきょうだい児支援事業きょうだい児へ贈る『ラブレター』 作成」で助成を受けており、その活動報告をかねてのパネル展示となりました。</p> <p>ぴーすの活動紹介から、昨年度作成しご好評いただいた「きょうだい児へのラブレター from ママ」の展示・配布を行いました。</p> <p>今年度、たくさんみなさまから寄せられたメッセージによる「ラブレター from ママ vol.2」は、ただいま製作中～。まもなく完成予定です！</p> <p>お楽しみに！</p>	<p><b>【これは使える ☆生活場面絵カード☆】</b></p> <p>「ねえねえ!! きいて!!」生活場面絵カード、入荷しました♪、「みてみて!! こんなん!」とってもイイです。使えます!</p> <p>・・・(中略)・・・ダメ・OKの提示だけでなく、おともだちの表情でも表してるのが、とってもわかりやすい! 開封早々、スタッフも飛びつき…、放課後クラブでもデビュー! 我が家も、いただき～♪ 拡大コピーして、わが家にペタペタと…。価格は1セット52枚で1,000円(税込) ぴーすなかも事務局、連勉会場、ぽっぽでもご覧いただけるようにしますね～。ご購入希望・お問い合わせはぴーす事務局まで… まずは、ごらんあれ～♪</p>
	<p><b>【ぴーす理事長：本日の業務】</b></p> <p>今年度の講演依頼 始まりました! 先週は(アップ忘れましたが)堺東高校の社会福祉の授業で 自閉症について その特性やおつきあいのお話してきました。で、今日は徳島県阿波市です。阿波市育成会に呼んでいただきました。障がい児者の防災がテーマ 今から本番です。大好きなお話なので、楽しくがんばります。</p>

3 : ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>

2009年1月27日よりリニューアルを開始



ぴーすの基本情報を掲載しています。利用会員の皆さんがほしい情報に簡単に早くアクセスできるようデザインをリニューアルしました。

本年度は、グーグル検索からぴーすのホームページへお越しいただいた方がとても増え、とりわけ、先の東日本大震災直後は「防災 障がい」をキーワードにヒットすることが顕著でした。

事業紹介～我が子の障がいに気づいて間がない幼児期のお母さん達を対象に、少し先輩の小学生の母親が講師役をつとめ、体験談・失敗談を交えつつ、共感・励ましを伝え、生活の工夫・親の心構えを紹介することにより、少しでも早く我が子への愛情・子育ての楽しさ・将来への明るい希望を取り戻してもらうことを目的に実施している勉強会です。

今年度は全日本冠婚葬祭互助会の社会貢献基金が決定し、一年間有効利用させていただきました。

H22年度の活動報告

1	5月28日(水) 福祉会館第3会議室 26名参加	こんな子育てやっています！～連勉オリエンテーション～ ・講師2名の自己紹介も兼ね、幼児期のことなど体験談をお話しました。 ビデオで今の子供の様子を紹介。
2	6月15日(火) 福祉会館第2会議室 16名参加	私と子どもとその周り・・・～家族・ご近所・先生 etc～ ・障がい児のきょうだい、父親、祖父母などの関わり方。障害の受容のことについて。
3	7月6日(火) 福祉会館第2会議室 28名参加	進路について～通園・保育所・学校～ ・わが子の進路について、通園施設・保育所・幼稚園などの情報提供と就園体験談のお話と支援学校と地域の小学校の様子を紹介しながら、進路を決める際の心構えなどをお話しました。
4	9月22日(水) 福祉会館第2会議室 19名参加	体験してみよう！～ワークショップ～ ・ぴーす小田多佳子理事長によるワークショップを開催。 子どもたちの世界を実際に体験しました。
5	10月26日(火) 福祉会館第2会議室 18名参加	ちょっと不思議？～障がい児の感覚～ ・一見すると不思議に見える行動も感覚を刺激するのに必要で、その刺激が成長のエネルギーになるという話をしました。
6	11月26日(金) 福祉会館第2会議室 18名参加	なんでかなあ？～困った行動・自傷・他傷など～ ・こだわり、自傷、他傷、パニック、多動について、体験談を中心に参加者さんに書いてもらったお子さんの困った行動を発表しながらお話をしました。
7	12月8日(金) 福祉会館和室 10名参加	みんなでグループトーク ・2グループに分かれて、3つのテーマでグループトークをしました。テーマごとにメンバーをシャッフルしました。
8	2月7日(月) 福祉会館第3会議室 17名参加	ことばとコミュニケーション ・子どもの口から出てくる「ことば」にまつわる苦い教訓をお話しし、子どもたちの「伝えたい」気持ちを引き出すにはどうすればいいかを学びました。
9	3月2日(水) 福祉会館第2会議室 20名参加	私について～ICFを知ろう～ ・ぴーす小田多佳子理事長によるお話。 ICFに基づく障がいのとらえ方を、具体的に例をあげてお話ししました。



～～講師担当者より 一年をふりかえって～～～～

H22年度も多くの方に参加していただきました。

「話を聞いて安心した」「子どものことが少し理解できた気がする」などの感想をいただき、身近な体験談をお話することで共感していただける部分が多くあったのではないかと思います。スタッフも参加者の感想に励まされ、元気をもらいました。

★第1回 「こんな子育てやっています！～連勉オリエンテーション～」

・初めて参加させていただきました。私と同じ想いの方々が沢山いらっしゃりとても心強く興味深くお話をきかせていただきました。沢山の辛いこと、しんどかったことを乗り越えてこられた皆さんのお話は心にひびくものがありました。

★第2回 「私と子どもとその周り・・・～家族・ご近所・先生 etc～」

・今日のお話は自分にかぶっていることがたくさんありました。ご近所のことや兄弟児のこと…。娘の障がいがわかってから娘のことよりも兄弟の心配ばかりしています。ずっと一番の味方でありたいなあと思います。

★第3回 「進路について～通園・保育所・学校～」

・まだ一年あるのに、すでに「どうしよう」と悩んだりしてしまいます。どちらが息子にとっていいのか、何がベストなのかと…。1年息子をよく見て考えていきたいと思います。先輩方も悩まれたんだと思うとホッと安心します。

★第4回 「体験してみよう！～ワークショップ～」

・いろんな体験をさせてもらい、少しでも子どもの気持ちに近づけたような気がしました。普段の生活の中で、お友達と比べて大声で怒ったりすることもあり、本人の気持ちにもっと寄り添ってあげればと思いました。

★第5回 「ちょっと不思議？～障がい児の感覚～」

・いろんな感覚のお話を聞いて、何でこんな事をするのかなと思っていることもたくさんありますが少し理解できたように思います。



★第6回 「なんでかなあ？～困った行動・自傷・他傷など～」

・困った行動をやめさせるのはむずかしい、というお話は説得力がありました。子どもが一番、困ってるんですね。私自身コミュニケーションやわかり易い生活をする努力をもうちょっとしてみたいと思います。

★第7回 「みんなでグループトーク」

・いままでとちがった企画をありがとうございました。いろいろな人のお話が聞けて楽しかったです。子供以外のお話にも興味深かったです。

★第8回 「ことばとコミュニケーション」

・うちの子は幼くて、何も出来ないし…とあきらめていたところがありました。障害があるからできなくて当然だし～って言ってなかったり、聞いてあげなかったり、何でもほめたり。いろいろ方法は人から聞くものの具体的に分かりにくいところがあったところが、今日少しピンッ！って来たように思います。

★第9回 「私について～ICFを知ろう～」

・障がい受容についてはできているつもりでしたが、まだまだ受け入れきれてない事、自分自身があきらめた事をもものすごく悔んでいる事、それをどこかで子どものためにあきらめたと思っている事に気が付きました。自分の気持ちに素直に生きることが、心が元気になって子どもにとっても良いことなのだと思います。

事業紹介～専門家の先生がお話する「大きな講演会」ではなく、もっと身近なテーマで暮らしに‘即・つながる’勉強などをするため、ぴーすでは少人数のセミナーを頻繁に開催しています。少人数であることが和気あいあいと話しやすいムードを作りだし、好評です。また、時間をかけて様々な支援グッズなどを丁寧に作り上げる「製作会」も好評です。

**H22年度の活動報告**

実施回数： 24回 (年間参加総数 112名)

実施内容：製作会「コミュニケーションブック」	6名	「ソーシャルストーリー」	8名
「サポートブック」	7名	「子ども紹介プリント」	5名
「ライフプラン」	10名	「手順書」	2名
「要求ボード・要求カード」	6名		
学習会「スケジュールどう作ったら？」	6名	「困った行動・パニックの対応」	7名
「障がい児の性教育について」	3名	「ヘルパーさんのつかい方」	4名
座談会「軽度障害児の学習について」	19名	「新学期の座談会」	3名
「シングルマザーのおしゃべり会」	2名	「中学進学・進路について」	8名
「いいところ見つけよう」	1名	「障がい児との遊び方」	3名
「どうしていますか？病院など」	4名	「家族のかかわり」	4名
「放課後の過ごし方」	4名		

＝＝小さなセミナー 参加者の感想＝＝＝＝＝

★「子ども紹介プリント作成会」に参加のお母さん

初めてセミナーを受けさせていただきました。出来あがった紹介プリントを見たとき、「すごい！」の一言で、自分だけではこの短時間では無理だったと思います。参加して良かったです。

★「軽度障がい児の学習」に参加のお母さん

いろんな障害のお子さんがいて、話が聞けて良かったです。お母さんたちのがんばりを感じることができて、勇気をもらいました。どこの家庭も試行錯誤しながら頑張っていることがわかり、私も怒ってばかりではダメだなあと反省しました。

★「手順書を作ろう」に参加のお母さん

文字だけで示してきた我流の手順書では、どうも子どもには合わなかったもので、勉強させていただきました。スタッフの人が見本として作成したものをを見せてもらって「これなら喜んで見てくれそう！」というものもあり、とても参考になりました。家でも作れるようにミニパソコン講座もしてもらって、助かりました。

★「障がい児との遊び方」に参加のお母さん

少人数のセミナーは、内容の濃い相談や実体験が聞けて子どもの遊び方の視点を変えてみるとか、対処方法を考える機会になりました。また、遊びに関しての書籍も多数あったので、ぜひ読んで参考にしたいと思いました。悩みや体験談を話しあい、情報を共有できる場であり、楽しい時間でした。

★「どうしていますか？病院・歯医者・散髪など」に参加のお母さん

・今まで病院や歯医者に行けないのは親がうまく子どもに伝えられていないから、やり方が悪いからと言われ、つらい思いをしていたのですが、今日のお話を聞いて気が楽になりました。気長に！気楽に！という言葉が嬉しかったです。また大きくなれば出来るときがくるかもという希望も持てました。

★「どうしていますか？放課後の過ごし方」に参加のお母さん

・小学校に入るにあたり、放課後の過ごし方にすごく不安がありましたが、制度を使わなくてはいけないという考えではなく、今のうちにいろんな体験をさせてあげるのがいいんだと思うと、気持ちも楽になりました。

事業紹介～ぴーすは、よく大きめの講演会やイベントを制作するのですが、その内容は固定化しておらず、その年・その時の保護者ニーズに合わせ、柔軟に「こんなのやれば、きっとみんな喜ぶね」を大事に企画しています。平成22年度もそのノリで、以下の講演会等を実施しました。

またH22年度は全日本冠婚葬祭互助会の社会貢献基金／日本生命財団児童・少年の健全育成助成（モデル助成）が決定したので、これらの講演会等にも有効利用させていただきました。

### 1. 『障がい児の防災について学ぼう』連続勉強会・特別講演として

実施日時：9月17日（金）10：45～12：30

実施場所：堺市総合福祉会館 第1会議室

講師：ぴーす理事長 小田多佳子

参加者：23名

実施内容：障がい児を持つ家庭の防災について災害が起きてからを4つの期間に分けて、それぞれの期間に必要なことと、+αとして「障がい児家族独自の目線からの提案」をお話ししました。「防災準備って大変なんじゃ～」と思いがちですが、ひとつひとつを聞いてみると、「これならできるかも！」「なるほど～、目からウロコ」な話がいっぱい、参加者さんは大きくなるまでおられました。事前準備の大切さと同じくらい大事なことは、いざ災害が起きたとき、周囲からの援助が必要な時、どうヘルプを出せるか…。それは災害時だけでなく、普段からの生活の中で「上手に自分たちのことを知ってもらうこと」。じゃあ、そのためにはどうしたらいい？という話も、難しいことではなく、少しずつ取り組んでいけそうなことばかりでした。



#### == 参加者の感想 =====

- ・私自身の防災に関する知識、すご～く浅かったことに気づきました。自分のところは大丈夫！とまでは思っていなかったですが、改めて怖さを知り、ここで勉強でき少し、すこし安心しました。実際被災された家族の話も涙が出そうになりました。でも現実で我が子・わが身にもおこることを知っただけでもすごいこれからは活かされることだと実感できました。全てを一気はできませんが、少しずつやっていけたらと、ほんとはほんとに思いました。
- ・あらためて防災の重要なことを実感しました。日頃頭の中にあっても備えまではいっていませんでした。特に障害児の対応を細やかに教えていただきまして勉強になりました。ありがとうございました。

### 2. 『障がい児のきょうだいフォーラム』きょうだいワークショップ報告会として

実施日時：1月24日（月）10：30～13：00

実施場所：堺市民会館 小集会室

ゲスト：NPO法人えんばわめんと堺

参加者：21名

実施内容：ぴーすのきょうだいワークショップに制作協力していただいている『NPO法人えんばわめんと堺』の皆さんをゲストとしてお招きし、フォーラムを実施しました。

えんばわめんと堺のメンバーで、障がい児のきょうだい当事者でもある方から『きょうだいについて』の体験談をお話しいただいた後、参加者が4名ずつのグループに分かれ、ぴーすスタッフと共にグループトークを行いました。

トークテーマは、『今日の当事者の方の話を聞いて』『きょうだいに、障がいの事をどう伝えるか？』『自分のことについて～ストレス発散法など～』の3つ。

テーマを変えるごとにメンバーチェンジをし、たくさんの人と話をすることができました。



- トークでは人前で話すのがとても苦手だったので、すごく緊張しました。でも、自分の思いを聞いてくれる場があってうれしかったし、楽しかったです。みなさんの話はとても参考になったし勉強になりました。アドバイスをもらったりしてありがたかったです。みなさん同じように悩んでおられるんだと、心強く思いました。ありがとうございました。
- 兄弟の方のお話を聞けてとてもよかったです。親子という関係では、小さくても大きくなっても、なかなか本心話すのは難しい。その分本当のところを分かってあげるのは難しいだろうと感じました。

### 3. 『障がい児の【感覚】について～我が子の持つ不思議な世界への招待状～』

感覚ワークショップの関連講演会として

実施日時：2月18日（金）10：30～12：30

実施場所：堺市民会館 大集会室

講師：太田篤志先生（姫路獨協大学 教授）

参加者：158名

実施内容：ぴーすでは H20、21年と2年連続でとりあげたテーマ「障がい児の感覚」。今年度は感覚ワークショップの実施開始を受け、ワークショップでの体験をより理解するために、改めて講演を伺おうということになりました。

講師は3年連続で依頼をした、姫路獨協大学・教授の太田篤志先生。

まず基本的な《感覚》についてのお話を子ども達の感覚を刺激しそうな《おもちゃの紹介》を交えつつ、分かりやすくお話していただきました。

変わった行動をするのは子ども自身の〈感じ方の違い〉があるから。一度子どもと一緒にやってみると…もしかしたら子どもの世界が見えてくるかも?!とのこと。また、自ら「教授というよりは、おもちゃ屋の店主」とおっしゃっていたほど、たくさんのおもちゃの説明をしていただきました。

この講演会のサブタイトルにもあります『招待状』の送り主は子ども達。子どもの目線に立てた時、その『招待状』を受け取ることができますが、その『招待状』を活かすためには、あと一歩子どもの心に近づく必要がある・・・と気づけた講演会でした。

今回は保護者だけでなく、作業所やヘルパー事業所の方達も多く参加いただきました。子ども達を理解する輪が広がったこと、とてもうれしく思います。

### == 参加者の感想 =====

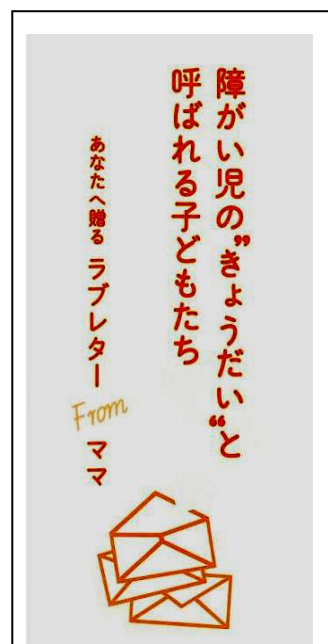
- 太田先生のお話はとてもわかりやすく、子供の行動の意味を知るのにとっても参考になりました。家の中で走り回っている子供を見て「もう！静かにしてよ！」といつも思っていたのですが、自分をコントロールするための行動だったのだとわかり、今まで親の目線で子供の行動を“困った行動”にしていただけではないかと反省しています。これからは子供の行動を共感し、理解しながらどうすればいいのか考えていこうと思います。（保護者）
- 子供達と同じ行動をとることで、また一歩近づけたり、もっと違う一面が見えたり。明日からまた一緒に過ごす時間がもっと楽しくなりそうで、楽しみです。ありがとうございました。（支援者）
- 招待状・・・いただいたことありました。一緒に楽しめたこともありましたが、うまくできていないこともあったので、今日からは見逃さないようにしたいと思いました。  
爪先立ちをしたり、本のおいやページをたたくわけが少しわかりました。謎多き息子を少しでも理解し、いろんなことを共有できたらいいなと思いました。（保護者）

H21年度にぴーすが作成をした「きょうだいリーフレット」。配布後、幅広い方達から「これは素晴らしい」という声をたくさんいただきました。特に、障害支援分野以外からの「大事なことを思い出させてくれた」「しんどい子育てを励ましてくれた」という感想・・・、作った私達のほうが驚いてしまう反応でした。

単純に、母達の心をこめたメッセージを並べただけなのに・・・と気恥ずかしく思いながらも、でも「これを作れるのは私達！」という気持ちもあって・・・。H22年度にぜひともvol.2をと思っていたところ、堺市市民活動基金の助成を受けることができ、年度末になりましたが、完成をしました。

今回も、母達の「きょうだいへ向けた、愛いっぱいメッセージ」をたくさん掲載しています。ぜひご覧ください。また、できましたら、ぴーすへ感想をお届けいただけると嬉しいです。Vol.3へのエネルギーにしたいと思っています！

『障がい児の‘きょうだい’と呼ばれる子どもたちへ  
～あなたに贈るラブレター From ママ』



## ■支援グッズを もっと たくさん・たのしく・便利に プロジェクト

～発達障害・知的障害のある子の〈暮らしを楽しく豊かにする福祉用具〉のリサーチと提案

H22年度は、財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団の助成を受け発達・知的障がい児が使用する用具についてのアンケート調査を実施しました。

ぴーすの子ども達の多くは、暮らしの中で様々なグッズを使用しています。そんな彼らを見ていると、障害ゆえうまくできないこと・理解しづらいことを、グッズやツールを使い「できる・わかる」ようにすることは、彼らの成長を促しているということがわかります。しかし、まだまだグッズ・ツールの情報は不足していて、使用していない子が多くいるのが現状です。

そこで「障害を訓練で治すのではなく、日々道具を使い便利に楽しく暮らすことで、意欲的に生活ができ、その結果、逆に障害の軽減につながることを目的として、現状をアンケート調査し、今どのくらい子ども達が、どのように用具を利用しているか、またしていないかを分析し、それを元に「どうすれば用具を使い楽しく・意欲的に暮らす子を増やすことができるか」「そのためには何が必要か」の提案をするプロジェクトに取り組みました。

企画から、アンケート作成、印刷製本、集計・分析そして提案冊子の作成まで、すべて母達だけで行ったこのプロジェクト。時間がかかりましたが年度末に提案冊子が完成！この冊子を、アンケート協力いただいた400名近い保護者と、学校、相談支援事業者、居宅介護事業者、用具製品メーカー等に配布。

今後、この提案が活かされ、より「使いやすい、便利な」用具が増え、たのしく暮らす子ども達がたくさん増えることを願っています。

## ■ぴーすの支援センター

事業紹介 堺市の委託事業。障害者・児の暮らしについて、さまざまな内容の相談や支援事業をおこなっています。悩みの解決に向け状況を把握し、支援計画、またその見直しをする「暮らしのマネジメント」、一人ひとりに合った活動場所・グループ作り・サークル活動作りなどの「社会資源の開発」、障害者・児を支援する人・場所・モノ・機関をつなぐネットワーク作りをしています。

### H22年度の活動報告

年間相談実人数 230名（昨年 214名）

年間相談延べ件数 2131名（昨年 1568名）

障害種別	視覚	聴覚	肢体	内部	知的	精神	発達	その他	重身
	1	0	10	0	125	15	44	33	2

相談内容	福祉サービスの利用援助（居宅介護支給量の計画や使い方など）	445件
	健康・医療・保健（医療機関の紹介など）	51件
	家族関係・人間関係に関する相談	8件
	日常生活の相談（障害理解・不安や情緒の安定・生活技術の向上）	283件
	家計・経済の相談（障害基礎年金や生活保護・金銭管理）	66件
	保育・教育の相談（進路・不登校・放課後活動など）	212件
	就労の相談	42件
	社会参加の相談（社会参加・余暇活動について）	57件
	その他（各関係機関との連携など）	674件
	ケアプランの作成	15件
	障害児母親のピアカウンセリング	11件
	サービス利用計画の作成	293件

～～担当者より 一年をふりかえって・相談の傾向として～～～～

前期（4月～9月） 学齢期の発達障害児の相談が圧倒的に多かった。家庭内暴力や不登校など。母親への寄り添いが必要なケースも多かった。4月当初はサービスや放課後事業の問い合わせ、夏休み前にはサービスの利用の仕方や事業所紹介が多くあった。

後期（10月～3月）前期とは異なり、成人の困難ケースが多くなった。保護者が高齢になり、障害者との二人暮らし家庭などで、これまでサービスなどを利用したことがなかったケースや親が抱え込み、家庭の中で状況が悪くなっていたケースなど。地域福祉課・包括支援センター・高齢の在宅介護支援センターとの連携が多くあった。

その他、支援センター連絡協議会、北区自立支援協議会、あいノート会議などに参加した。

## ■ぴーすのヘルパーステーション

事業紹介～大阪府指定の居宅介護等事業所です。主に、児童の移動支援についてヘルパーの派遣しています。

H22年度はサービス提供責任者や担当職員の退職があいつぎました（利用者にはご迷惑かけたことも・・・申し訳なかったです）。が、心機一転で職員総入れ替えをした結果、いろんな事・物の見直しができ、時間はかかりましたが、年度末にはかなりスムーズは業務進行できるようになりました。

特にヘルパーの育成や支援計画の見直しなどに取り組みを開始ができたことは意味が大きく、まだ進行中（開始したばかりという感じ）ですが、次年度に引き継ぎ丁寧に行っていこうと思います。

またH22年度は堺市育児支援ヘルパーの依頼が3件あり、出産直後の支援にも携わりました。

H23 3月末現在 契約利用者数 60名

登録ヘルパー数 35名

ぴーすでは、様々な立場で、多数の人たちが、ぴーすの一員として「仕事」や「活動」をしています。その人達の「スキルアップ研修」として、H22年度は以下のような研修を実施しました。

1.職員・ボランティア研修 「支援者のためのファシリテーション入門講座」

実施日時：11月15・29・30日 10:00~13:00

実施場所：堺市総合福祉会館 第2会議室

講師：ちよんせいこさん（人まちファシリテーション工房）

参加者：延べ49名

実施内容：ぴーす職員を始め、ぴーすの各事業に携わるスタッフ・ボランティアを対象にした[ステップアップ研修]。講師に[人まちファシリテーション工房]のちよんせいこさんをお迎えして、傾聴・ファシリテートや会議の仕方などについて学びました。  
ファシリテートとは、集団の話合いを良好なコミュニケーションを育みながら進めていくというもの。3日間の研修ではいろんなパターンのワークショップを行いました。

== 参加者の感想 =====

- ・可視化する事でこんなに分かりやすくなるんだぁと思いました。子供も言葉のみより、文字や絵を見せた方が分かりやすい。それは私たちも同じなんですね。
- ・人の話を聞き、それをどういう形でつないでいくか、何を大切に考えていくかということがはっきりした気分です。またお話の中で特に印象に残ったのは「好意的な態度は相手が決める」ということでした。人と話をする上で肝に銘じていかないと感じました。

2.ヘルパー・放課後クラブスタッフ研修

ぴーすでは居宅介護・移動支援に従事するヘルパーと、放課後クラブのスタッフに向けて、年間を通じ研修を実施しました。以下、内容です。

実施月	参加数	テーマ
4月	24名	「障害とは ICFについて」「知的障害とはなにか」「自閉症とはなにか」 「コミュニケーション支援の基本」「報告の仕方、緊急対応」
5月	32名	
6月	1名	
7月	3名	「視覚的支援物を利用する」
10月	8名	
11月	7名	
12月	4名	「防災対策と危機管理」
1月	10名	
2月	15名	「問題行動への対応」「見失い・交通事故&落下事故等の予防」



## ■ぴーすが参加した会議など

第2次堺市地域福祉計画・第4次堺市社協地域福祉総合推進計画 推進懇話会  
堺市発達障害者支援専門部会  
中区まちづくり会議 本会議 子育て分科会  
堺市発達障害者支援センター連絡協議会  
大阪手をつなぐ育成会 理事会  
堺市社会福祉事業団 評議会  
国際障害者交流センター芸術 / 文化事業等 企画提案審査会  
堺障害フォーラム (SDF)

## ■ぴーすから講師・発表者を派遣したもの

- 5月25日：府立堺東高等学校「社会福祉基礎」受講者対象講座  
「障害のある子どもたちと向き合うこと」 講師：小田
- 5月31日：阿波市手をつなぐ育成会総会記念講演  
「知的障がい・発達障がいのある人をどう守る？」 講師：小田
- 6月9日：堺市立平井中学校3年生  
「ボランティア・福祉体験学習」の前学習としての講話 講師：小田
- 6月18日：南大阪地域大学コンソーシアム情報交流会（事例発表） 発表：小田
- 7月7日：府立交野高等学校人権研修会  
「発達障がいのある子の暮らし～魅力いっぱいの個性を育てる～」 講師：小田
- 7月29日：府立堺支援学校教職員研修会  
「障害程度区分認定について」 講師：小田
- 8月5日：東大阪市高井田中学校区4校園いじめ問題合同研修会  
「発達障がいのある子の暮らし～魅力いっぱいの個性を育てる～」 講師：小田
- 8月5日：北っ子クローバー講師派遣  
体験談「わたしの子育て」 講師：山本あ
- 8月27日：和泉市鶴山台南小学校主催特別支援教育研修会  
「障がい受容の難しい保護者への対応」 講師：小田
- 9月4日：和歌山県盲ろう支援学校PTA連合会主催研修会  
「障がい児家族に伝えたいこと～災害に備えて～」 講師：小田
- 9月7日 えのきはいむ保護者会主催コンサート 企画：ぴーす
- 9月7・9・10日：めだか親子教室勉強会  
「進路について～先輩保護者の体験談～」 講師：辻・三原ほかぴーすスタッフ
- 9月24日：富田林支援学校PTA講演会  
「障がいのある子のいる家庭の防災」 講師：小田
- 9月25日：堺おもちゃ図書館ぼっぼ主催 ぴーすの就学相談会 派遣：松田・辻・三原
- 10月5日：障がい者制度改革推進地域フォーラムIN大阪 発表：小田
- 10月9日 南区役所主催南区まちづくり会議安心班企画つながりづくりまちづくり～みんなで考える防災～  
障がい者手助け体験コーナー（知的・発達分野） 展示：ぴーす
- 10月17日：堺の発達・教育・相談連絡会主催 発達・教育・就学相談会  
「小・中・高校生が使える福祉の制度」 講師：松本
- 10月26日：堺市手をつなぐ育成会2010講演会  
愛本みずほ先生トークショー 司会：小田

- 10月29日：堺市教育委員会教育センター主催特別支援教育研修  
「母親の障がい受容について～母をどう支えるか～」 講師：小田
- 
- 11月8日：東区子ども連絡会  
参加：小田・三原・連続勉強会スタッフ1名
- 11月9日：府立堺東高等学校3年「社会福祉援助技術」2年「障がい理解実践B」受講者対象講座  
「障がいのある子どもたちと向きあうこと」 講師：小田
- 11月20日：第10回堺人権保育フォーラム  
「愛されて輝く子どもたち」 発表：小田
- 11月27日：北区さかいボランティア連絡会 映画上映会  
映画タイトル シンポジウム パネリスト：小田
- 11月27日：近畿障害児教育臨床研修会  
「障がい児とその家族を支える～大切なネットワーク」 講師：松本
- 
- 12月2日：第2回堺障害フォーラム（SDF）集会  
「発達障がい当事者の立場から」 参加：小田
- 12月5日 阪南市 障がい者（児）団体連絡協議会主催 第10回 障がい者文化祭  
障がい児支援グッズ展 展示：ぴーす
- 12月21日：大阪手をつなぐ育成会 支部連プラス  
「知的障害者（児）と防災について」 講師：小田
- 
- 1月12日：堺市立福泉中央小学校職員研修  
「母親の障がい受容について～母をどう支えるか～」 講師：小田
- 1月28日：堺市教職員組合学習会  
「児童が使える福祉制度」 講師：松本
- 
- 2月26日：中区まちづくり会議 子育て分科会 主催  
中区子育て支援関係団体交流会 発表：松本・三原
- 2月20日：洲本市発達障害児親の会オレンジ 主催 講演会  
「自閉症のやあくん、町を歩く～絶望がわくわく、ルンルンに変わる話～」 講師：小田
- 
- 3月5日：宇宙ステーション他 主催 講演会  
「自閉症の人たちの理解と支援～特性理解について」 講師：小田

## ■ぴーすを紹介等された メディア

- 1月13日発売  
講談社刊 Be・Love コミックス「だいすき！！ゆずの子育て日記」13巻（愛本みずほ・著）  
巻末に取材協力先として掲載
- 3月22日発行  
読売新聞 全国版夕刊にぴーす防災手帳とワッペンが紹介される。